学校番号	3018

令和２年度　　地理歴史　　科

教科	地理歴史	科目	地理Ｂ	単位数	（　３　）単位	年次	（　２　）年次
使用教科書	新編 詳解地理Ｂ 改訂版（二宮書店）　　新詳高等地図（帝国書院編集部編）						
副教材等	三訂版　最新地理図表 ＧＥＯ （第一学習社）　　地理統計要覧 2020年版（二宮書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

o　地理的事象に対して「なぜこのようなことが起こるのか」という視点を持つ。

o　地域間における『差異』と『同一性』の特徴を知り、それが生み出される背景や状況などを考察し、一般的な法則や地域の独自性を理解する。

o　地理的要素を背景とした世界の国や地域の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

2　学習の到達目標

o　諸資料に親しみ、地理的思考力を培う。

o　現代の諸課題を地理的観点から考察することができる。

o　世界の地理を歴史的条件や日本の地理と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる人物としての自覚と資質を養う。

o　地理の共通テストで求められる能力を鑑み、以上の事柄を踏まえて学習することにより対応できる学力を修得する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	○地理的諸事象、ないしは現代世界の諸地域や諸課題に興味・関心を抱き，それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけ、結びつけることができる。 ○現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる人物としての責任を果たそうとしている。	○現代世界の地理的事象から課題を見出し、国際社会の変化を考慮した上で公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。 ○現代世界の諸地域の特色について、歴史的背景との関わりから系統地理的に考察することができる。	○地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、図表や白地図などにまとめることができる。 ○地図や統計、画像などから地理的情報を読み取る地理的技能を習得している。	○地理的諸事象や現代世界の諸地域の特色、諸地域で起こっている諸課題についてさまざまな角度から理解を深めることができる。 ○地域において社会生活を営むにあたって必要とされる基礎的知識や基本的概念（空間・環境・地域）、地理的見方・考え方を身につけている。
評価方法	作業プリント・ワークブック等の提出 授業中の発問に対する反応 学習状況の観察	定期考査の結果 作業プリント・ワークブック等の提出 授業中の発問に対する回答の内容 学習状況の観察	定期考査の結果 作業プリント・ワークブック等の提出 授業中の発問に対する回答の内容 学習状況の観察	定期考査の結果 作業プリント・ワークブック等の提出 授業内の演習問題の回答 学習状況の観察

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	地形環境と地形災害	地球表面と世界の地形	○	○			a:世界の地形について、営力的な視点からさまざまな大地形、小地形、その他の地形があることの考察を基に、災害と恩恵など人間生活との関わりに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 b:世界の地形について、内的営力、外的営力といった営力的な視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形を系統地理的に捉える視点や考察方法を基に、人間生活との関わりなどを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:世界の地形と人間生活との関わりに関するデータや写真などの諸資料を適切に収集し、それらの資料から有用な情報を適切に選択し、これを基に世界の大地形、小地形、その他の地形の分布や成因と人間生活との関わりについて、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:世界の大地形、小地形、その他の地形について、系統地理的に捉える視点や考察方法、人間生活との関わりなどを理解し、その知識を身につけている。	・定期考査の結果 ・ワークブック・ノート等の提出 ・学習状況の観察
		河川が作る地形	○		○			
		海岸の地形	○		○			
		その他の特徴的な地形			○	○		
前期期末	気候環境と気象災害	地球規模でみた 気温、降水量、大気の流れ	○	○			a:世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、さまざまな気候が成り立つことの考察を基に、各気候区の特徴や、農業など人間生活への影響に対する課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 b:世界の気候について、気温・風・降水などの気候要素と緯度、水陸分布などの気候因子との関係から、気候の成り立ちを系統地理的に捉える視点や考察方法を基に、各気候区の分布や農業など、人間生活への影響を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:世界の気候と人間生活への影響に関するデータや写真などの諸資料を適切に収集し、それらの資料から有用な情報を適切に選択し、これを基に世界の気候の特徴と農業など人間生活への影響について、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:世界の気候の成因や各気候区の特徴について、系統地理的に捉える視点や考察方法、人間生活への影響などを理解し、その知識を身につけている。	・定期考査の結果 ・ワークブック・ノート等の提出 ・学習状況の観察
		海洋の影響と気候の地域性	○	○				
		世界の気候区分	○	○				
		世界規模でみた植生、土壌		○	○	○		
		熱帯の気候と生活			○	○		
		乾燥帯の気候と生活			○	○		
		温帯の気候と生活			○	○		
		冷帯・寒帯の気候と生活			○	○		

後期中間	世界の農林水産業	農業地域の形成条件	○		○		a:世界の農林水産業について、農業地域区分、林業・水産業に関する分布や動向などに関する考察を基に、現代世界と日本の農林水産業に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・定期考査の結果 ・ワークブック・ノート等の提出 ・学習状況の観察
		自給的農業			○	○		
		商業的農業			○	○	b:世界の農林水産業について、グローバル化が進むなかでの現代世界や日本の農業の現状と課題を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
		世界農業の動向	○			○		
		世界の水産業		○	○		c:農林水産業の生産や分布の特徴に関する統計などの諸資料を適切に収集し、それらの資料から有用な情報を適切に選択し、これらを基に農林水産業の現状や課題について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	
		世界の林業		○	○			
		食糧問題	○		○		d:各農業地域の分布や特徴，世界や日本の農業の動向について，系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し，その知識を身につけている。	
後期期末	世界の鉱工業（資源・エネルギー）	世界の1次エネルギー資源	○		○		a:世界のエネルギー・鉱産資源について、その分布や動向、生産・消費の不均衡などの考察を基に、エネルギー資源や鉱産資源の利用に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・定期考査の結果 ・ワークブック・ノート等の提出 ・学習状況の観察
		世界の2次エネルギー資源	○	○			b:世界のエネルギー・鉱産資源について、その特徴や利用法、これからのエネルギー利用のあり方を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
		世界の原料資源		○	○	○	c:・エネルギー資源や鉱産資源の生産や分布に関する統計などの諸資料を適切に収集し、それらの資料から有用な情報を適切に選択し、これらを基に資源の生産や分布について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	
		資源・エネルギーをめぐる課題		○		○	d:エネルギー資源・鉱産資源の種類と利用法、分布や動向、エネルギーのあり方になどについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。	

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。